

<災害の基礎情報>

事故の型

転倒

性別・年齢層

女性・60代

傷病名・休業日数

頭部打撲傷、脳震盪後症候群
15日休業

発生日・時刻

8月・14時台

□ 災害発生状況

被災職員が廊下を歩いていたところ、廊下に設置してあったうがい器の足元に**水たまり**ができており、**それに気がつかず水たまりで足を滑らせ転倒**した。後頭部を壁及び床に強打したことにより、頭部打撲傷と脳震盪後症候群を負った。

□ 発生の要因

- ・ うがい器の故障により床に水たまりを形成してしまう状況であったこと。
- ・ 水たまりがあったのに、誰もそれに気がつかず、廊下が安全通路となっていなかったこと。

□ 発生後に講じた措置

うがい機の製造業者に水たまり形成の原因の調査を依頼したものの、完全な原因の特定に至らなかったため、全庁に設置されている同一品番のうがい機を全て撤去した。

□ 有識者からのコメント：類似事例への示唆

うがい器そのものではなくその足元にできている水たまりがそのまま放置されていたことを転倒災害の原因となるハザードとして捉え、通路の清掃頻度や、4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動、機器のメンテナンスなどの運用上の対策を講じることが重要となる。

<災害の基礎情報>

事故の型

動作の反動、無理な動作

性別・年齢層

男性・50代

傷病名・休業日数

腰椎捻挫
15日休業

発生月・時刻

11月・7時台

□ 災害発生状況

被災職員は執務室内にあった荷物を宅配便業者に引き渡すため、荷物を室外に持ち出す業務を行っていた。1個あたり1～2kg程度の荷物を5～6個持ち上げて、室外に持ち出す動作を繰り返していた最中に腰に強い痛みが発生したものの。

□ 発生の要因

- ・運ぶ距離が短かったため、台車を使用せずに作業していたこと。
- ・業務中に10kg程度の荷物を運ぶことがよくあったため、一度に運んでも問題ないと思って作業したこと。

□ 発生後に講じた措置

被災職員を含め、官署内の職員に対し、重い荷物が多い時には、課内の他の係に応援要請をするように推奨した。また、台車を使わずに複数の荷物を運ぶ際には、一度に沢山運ぼうとせず、分けて運ぶように注意喚起した。

□ 有識者コメント:類似事例への示唆

- ・荷物の置き場所を工夫するなどの作業環境管理がポイントとなる。
- ・荷物を持つ前に、ストレッチをすると、腰痛災害の発生率を30%ほど減らすことができるというデータがあり、実践すると良い。

<災害の基礎情報>

事故の型

有害物等との接触

性別・年齢層

男性・20代

傷病名・休業日数

アルカリ眼外傷による角膜びらん及び結膜炎
3日休業

発生日・時刻

2月・0時台

□ 災害発生状況

被災職員は航海中の船舶において、船舶内に配置されたボイラーに薬液(ボイラー用清缶剤:強塩基性)を補充するため、薬液の入ったタンクに正対し、左手で薬液を入れるためのカップを持ち、右手親指でタンクの取り出しキャップを押し下げて開けようとしたが、キャップが固く開かなかったことから、更に力を入れてキャップを押し下げた際に**勢いよくキャップが開き、**キャップ内部に少量溜まっていた**薬液が飛び散り、1滴右目に入ったもの。**

□ 発生の要因

本薬液補充作業は機関管理室に備付けの保護メガネ及び手袋を着用することがルール化されており、乗組員らに共有されていたが、保護具を着用しなかったこと。

□ 発生後に講じた措置

管理監督者から乗組員総員に対し、基本的事項の遵守について指導した。また、機関管理室に備付けの保護具を薬液の横に備えるとともに、その着用について徹底させることとした。

□ 有識者コメント:類似事例への示唆

- ・保護具を薬液の近くに設置するよう変更したことは、有効な対策である。
- ・常にキャップが固く開きづらいのであれば、その不安全な要因自体の除去が重要である。
- ・単純作業でも危険性が高い作業は、複数人で行うことも対策として考えられる。